

国立国語研究所学術情報リポジトリ

漢語動名詞を含む名詞節の構造パターンの分析： BCCWJデータに基づいて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-13 キーワード (Ja): 漢語動名詞, 名詞節の構造パターン, BCCWJ キーワード (En): Sino-Japanese Verbal Nouns, Noun Phrases, BCCWJ 作成者: 陳, 迪 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000358

漢語動名詞を含む名詞節の構造パターンの分析 —BCCWJ データに基づいて—

陳 迪 (神戸大学国際文化学研究科) †

Analysis of Structural Patterns of Noun Phrases Containing Sino-Japanese Verbal Nouns -Based on BCCWJ Data-

CHEN Di (Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

要旨

漢語動名詞が名詞節内で使用される場合、主として、動詞型(「漢語+スル・シタ+名詞」)、名詞型(「漢語+ノ+名詞」)、形容詞型(「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」)という3種の構造パターンがある。本研究では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用いて個々の典型性を確認したうえで、重回帰分析により、個々の構造パターンの選択に影響する言語的要因を調査した。その結果、漢語動名詞が名詞節内で使用される際に、典型性は動詞型が高く名詞型が低く、形容詞型はむしろ例外的であること、漢語動名詞の意味範疇・中国語での品詞・日本語での品詞・自他性・使用環境などの特性が動詞型ないし名詞型の選択に影響を及ぼすが、形容詞型の選択に対する影響は弱いことなどが確認された。得られた知見は、言語学だけではなく、日本語教育にも応用が可能だと考えられる。

優勝 名詞形

1. はじめに

「準備」や「安定」など、名詞でありながら動詞的意味を有し、「する」を付加することでサ変動詞としても使われるものを、一般に、漢語動名詞(Sino-Japanese Verbal Noun, 漢語VN)と呼ぶ(小林2004, 桑原2017)。これらが名詞節内で使用される場合は、「漢語+スル・シタ+名詞」(動詞型)、「漢語+ノ+名詞」(名詞型)、「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」(形容詞型)の3種の構造パターンが存在することが知られている。

以下は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)からとった「準備」の用例である。(1)は動詞型、(2)は名詞型、(3)は形容詞型であるが、形容詞型については「準備的」はあるものの、「準備的な」や「準備な」といった用例がBCCWJには見当たらなかった。

- (1) 幾多の機会があり、それを取るために準備する時間があまりにもたくさんあるのが人生です。(OY14_29757, 特定目的・ブログ)
- (2) むこうも準備の都合があるので、早ければ早いほどいいです。(OC11_01708, 特定目的・知恵袋)
- (3) ...私はむしろ、経済構造を推進するための、その準備的発想において補正予算を組むということが一つ。(OM65_00007, 特定目的・国会会議録)

† chendi24410@gmail.com

次に、「安定」の用例を見てみよう。(4)は動詞型、(5)は名詞型、(6)～(8)は形容詞型であり、「準備」の場合は異なり、形容詞型については想定される三つの形態、すべてが出現していた。

- (4) 景気の波が大きく、それが人々の安定した生活を脅かすとすれば、波の振幅はできるだけ小さいことが望ましい。(PB13_00270, 出版・書籍)
- (5) また、世界の各国は、何らかの形で地域の安定の維持・回復に貢献することが求められてきている。(OW4X_00315, 特定目的・白書)
- (6) 対外的には調和のとれた国際関係を形成し、世界経済の安定的発展のために我が国にふさわしい貢献をしていくことにあります。(OM35_00005, 特定目的・国会会議録)
- (7) ...各種の施策を組み合わせまして養鶏業の安定的な発展を図ってまいりたいと考えておるわけでございます。(OM21_00010, 特定目的・国会会議録)
- (8) 逆に、水の信号が安定な条件の場合には、トラックが水になってしまうというわけである。(PB15_00437, 出版・書籍)

こうした名詞節内における漢語動名詞の構造タイプ別の許容性の違いや、その複雑な振る舞いについて、先行研究では、主として、漢語全般の研究で扱ってきた。漢語動名詞に限った研究は少ない。また、動詞型と名詞型のみを対象にするものが多く、形容詞型を加えた総合的な分析は少ない。さらに、質的観察に基づくものが大半で、コーパスデータを用いた計量的な分析や、構造パターンの決定に関わる言語的要因解明を目指した研究はほとんど存在しない。そこで本研究は、BCCWJ データを用い、漢語動名詞に限って、3種の構造パターンの典型性の差を確認した後、各パターンの選択に影響する言語要因を調査する。

2. 先行研究

日本語名詞節の構造パターンについては様々な研究が行われてきたが、ここではコーパスデータに基づく事例調査に絞って概観する。

まず、動詞型の名詞節構造パターンについて、石(2021)では、漢語動名詞の場合は「VNスル/シタN」のパターンが一般的に成立することと指摘された。鄧(2022)は、BCCWJを用いて100語の漢語を対象とした連体修飾用法の調査を行い、その結果、連体修飾標識としての「シタ」の許容性は高くないものの、5種類の標識(「ナ」「ノ」「シタ」「的φ」「的ナ」)の中では「ノ」に次いで多用されることが確認された。漢語全般の場合には「シタ」と接続できる語の数が必ずしも多くないが、その使用頻度が高いということがわかった。なお、漢語動名詞である「安定」の5種類の連体修飾パターンの意味機能的相違を調査した結果、「安定シタ」は5種類の連体修飾パターンの中で使用頻度が最も高く、BCCWJにおいて韻文以外のすべてのジャンルで使われ、使用範囲が最も広く、典型的な用法であることが確認された。

次に、名詞型の名詞節構造パターンについて、前述の石(2021)は、寺村(1993)が提唱された連体節構造に関する概念である「内の関係」と「外の関係」をふまえて、新たな視点から漢語動名詞の連体用法「VNノN」の成立条件を考察した。寺村(1993)は、連体修飾構造において、名詞が修飾部の述語に対して補語として機能する関係を「内の関係」(例:「さんまを焼く男」→「男がさんまを焼く」)と定義し、底の名詞が修飾部の外部から由来し、補語として機能しないものを「外の関係」(例:「さんまを焼く匂い」→「*その匂いがさんまを焼く」)と呼んでいる。石氏は、BCCWJを用いて、「(漢語)VNノN」の用例を収

集し、「内の関係」と「外の関係」の定義に従って整理・分類した。その結果、(1) 外の関係「VNノN」(例:「離婚の話」)は全体の96.6%を占めており、一般的に成立可能であること、(2) 内の関係「VNノN」(例:「*後退の経済」)は全体の3.4%を占めており、一般に成立不可であるが、特殊な場合にも成立可能であること(例:「新築の建物」)、が明らかになった。さらに各種の漢語動名詞の「VNノN」について考察すると、(a) 外の関係「VNノN」の場合、内容型・基準型・随伴物型の3種類に分けられ、(b) 内の関係「VNノN」の特殊な用法の場合、VNは被修飾語としてのNの特徴や属性を表し、つまり、形容詞の役割を持っている、ことが確認された。また、鄧(2022)は、5種類の連体修飾標識の中で、「ノ」の許容性と占有比はともに一番高く、漢語と他の名詞との組み合わせにおいて、「ノ」が典型的な標準形であることが確認された。しかし、「安定」の連体修飾パターンを調査した結果、「安定ノ」の占有比はわずか8.31%にとどまり、漢語全般の傾向とは異なることが確認された。なお、「安定ノ」の使用範囲は「安定シタ」に次いで広く、幅広い範囲で使用されるパターンであると考えられる。

最後に、形容型の名詞節構造パターンについて、呉人他(2008)は、「的」が付く語基の特徴および「的」が付く結合語の文中における用法を、『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』の社説のデータを用いて分析した結果、(1) 語基の語種(漢語・和語・外来語)について、2字漢語が約9割を占めていること、(2) 語基の品詞性(体言類・用言類・副言類・相言類・結合類)について、体言類が約7割を占めていること、(3) 「的」が付く結合語の文中での用法について、修飾される名詞が形式体言や一字の漢語である場合、または「的」の派生語の後に限定語がある場合、「的な」を取る一方で、「的」の派生語と修飾される名詞の結びつきが強い場合は「的φ」を取ることで、などが確認された。李(2013)はBCCWJを用いて、形状詞可能語の「ナ」と「ノ」による名詞修飾節の使用実態を調査し、クラスター分析と判別分析を実施して調査対象語を3つのグループに分けられた。また、グループ間の語義数や語彙親密度に差が見られるかについて分散分析で検討した。その結果、多様な語義を有する形状詞可能語は、「ナ」と「ノ」のどちらともよく共起すること、そして「ノ」共起の形状詞可能語は「関係概念」を表すものが多いのに対し、「ナ」共起の形状詞可能語は「活動(出来事)概念」を表すものが多いこと、が明らかになった。前述した鄧(2022)では、漢語全般の場合、「的φ」「的な」「ナ」の許容性と占有比はいずれも低い、「的φ」の許容性は3種の標識の中で最も高いが、「的な」のほうが多く使用されることが確認された。つまり、実際の日本語では、「的な」のほうがより自然であることがわかった。また、「安定」の場合、「安定的φ」の使用頻度が「安定ナ」と「安定ノ」のどちらよりも高いということは、漢語全般の傾向と異なることも確認された。それに、「安定ナ」は物理や化学などの理科の教科書において多用されている一方、「安定的(ナ)」は白書や法律などのような公的なジャンルで多用されていることがわかった。

以上のように日本語名詞節の構造パターンについては様々な調査が行われてきたが、(1) 漢語動名詞に焦点を合わせた研究は少ない、(2) 3種の構造パターンの典型性の議論は少ない、(3) その言語的背景についての説明も少ない、などの課題も残されている。

3. リサーチデザイン

3.1 本研究の目的とRQ

すでに述べたように、漢語動名詞が名詞節内で何らかの名詞を修飾する場合、動詞型・名詞型・形容詞型の3タイプが存在するが、その典型性や、各タイプの選択要因は従来必ずしも明らかにされていない。本研究では、BCCWJのデータを用い、これらの解明を目指す。この目的を踏まえ、以下の2つのリサーチクエスチョンを設定した。なお、本研究では、後述するように、いわゆる典型性を許容度と占有比の2つの観点で定義する。

RQ1 3種類の名詞節構造パターンのうち、典型性(許容度・占有比)が最も高いのはどれか?

RQ2 3種類名詞節構造パターンに影響を及ぼす漢語動名詞の言語特性は何か？

3.2 調査対象語

本研究では、現代日本語で一般的に多用される重要漢語動名詞 200 語（陳 2023）を調査対象語とする。

表 1 重要漢語動名詞 200 語（重要度順）

利用	実施	使用	対応	紹介	確認	増加	発生	表示	作成	説明	参加	推進	発表	存在
理解	表現	期待	活用	注意	設定	設置	開催	減少	変化	購入	提供	比較	検討	結婚
選択	指定	展開	判断	入力	用意	検索	質問	確保	工夫	実現	評価	計算	開始	変更
発見	登録	注目	拡大	規定	導入	決定	相談	完成	指摘	勉強	構成	提出	移動	改善
保存	整備	解決	開発	整理	考慮	低下	安定	促進	維持	把握	登場	上昇	予想	成立
終了	反映	成功	形成	発展	販売	記載	報告	採用	記録	重視	発揮	意識	安心	認識
処理	撮影	配慮	練習	意味	削除	実行	生活	該当	集中	主張	達成	心配	無視	活躍
交換	連絡	観察	成長	分析	充実	強化	対処	継続	掲載	設立	適用	強調	経験	活動
失敗	支援	想像	努力	発達	提案	追加	発行	取得	学習	独立	調整	電話	更新	増大
卒業	加入	推移	吸収	代表	貢献	回答	我慢	調査	発売	一致	接続	派遣	希望	分解
保護	出席	分類	指導	反応	納得	悪化	解消	運転	印刷	進行	相当	準備	経過	違反
出品	反対	記入	感染	提示	証明	落札	到着	防止	放送	否定	演奏	改正	請求	応援
入院	出発	苦勞	訪問	通過	死亡	収集	表明	注文	策定	支給	制定	就職	批判	感謝
施行	所属	支配	共有	合格										

これらは、BCCWJにおける詳細内容別 65 変種と、『日本語日常会話コーパス』(Corpus of Everyday Japanese Conversation: CEJC)における場面別 7 変種、あわせて 72 変種中の頻度調査を根拠として、その平均頻度とレンジに基づいて抽出されたものである。

3.3 使用するコーパス

本研究では、日本語コーパスとして前述の BCCWJ と CEJC を、中国語コーパスとして Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC) (McEnery & Xiao 2004) を使用する。

BCCWJ は国立国語研究所が中心となって構築された日本国内ではじめての大規模均衡コーパスである。新聞・雑誌・書籍・法律・白書・教科書など 13 種の大ジャンルに区分されており、ジャンルによっては更に詳細な下位区分がある。

CEJC は国立国語研究所が構築された大規模話し言葉コーパスである。CEJC は様々なタイプの日本語日常会話およそ 200 時間をバランスよく収録した。会話の形式によって雑談、用談・相談、会議・会合、授業・レッスンの 4 種のジャンルに区分されている。

上述した BCCWJ と CEJC のデータはコーパス検索アプリケーション『中納言』で利用することができる。

LCMC は Richard Xiao が作成した現代中国語均衡コーパスである。当該コーパスは、Brown Corpus から派生した FLOB (Freiburg-LOB Corpus of British English) のサンプリング基準に従って作成され、データ量はおよそ 100 万語である。このコーパスは、中国語の書き言葉を想定母集団にし、1989 年から 1993 年まで出版された中国大陸の出版物に限ることを決めた。その後、Brown/FLOB と同等の 15 種のカテゴリーごとに現実母集団を決め、無作為抽

出法によってサンプルを集めた。LCMCは、CQPweb (Corpus Query Processor) というオンラインのシステムで無償に利用することができる。

3.4 分析の手順

本節では、まず、漢語動名詞を含む各型の名詞節構造パターンの抽出手法について紹介する。本研究では、コーパス検索アプリケーション『中納言』を利用して、BCCWJから重要漢語動名詞 200 種の 3 型の名詞節構造パターンを抽出して分析する。なお、キーを漢語動名詞に設定する場合、「再利用すること」や「住所確認のため」などのような、接頭辞が付くものや複合名詞の用例を抽出する可能性もある。本研究では、漢語動名詞そのものの用法について分析するため、これらの用例を対象外とする。抽出の詳細は表 2 のように示す。

表 2 名詞節構造パターンの抽出

構造パターン	検索条件及び抽出例
漢語スル・シタ+名詞	<p>【漢語スル+名詞】</p> <p>前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」</p> <p>後方共起 1：キーから 1 語 語彙素が「為る」AND 活用形の大分類が「連体形」</p> <p>後方共起 2：キーから 2 語 語彙素が品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(ノンフィクションを) 利用する場合」</p> <p>【漢語シタ+名詞】</p> <p>前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」</p> <p>後方共起 1：キーから 1 語 語彙素が「為る」AND 活用形の大分類が「連用形」</p> <p>後方共起 2：キーから 2 語 活用形の小分類が「助動詞-タ」AND 活用形の小分類が「連体形-一般」</p> <p>後方共起 3：キーから 3 語 品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(サービスを) 利用したとき」</p>
漢語ノ+名詞	<p>前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」</p> <p>後方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」AND 語彙素が「の」</p> <p>後方共起 2：キーから 2 語 品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(社内食堂の) 利用の仕方」</p>
漢語的・的ナ・ナ+名詞	<p>【漢語的+名詞】</p> <p>前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」</p> <p>後方共起 1：語彙素が「的」</p> <p>後方共起 2：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(世界経済の) 安定的発展」</p> <p>【漢語的ナ+名詞】</p>

	前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：語彙素が「的」 後方共起 2：書字形出現形が「な」 後方共起 3：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(経済の) 安定的な運営」 【漢語ナ+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：書字形出現形が「な」 後方共起 2：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(化学平衡の) 安定な状態」
--	---

次に、RQ 順に研究手法を具体的に述べる。

RQ1 (典型性) では、すでに述べたように、許容度と占有比という 2 つの側面から、3 種の名詞節構造パターンの典型性を判断する。まず、許容度については、重要漢語動名詞 200 種の中、動詞型・名詞型・形容詞型、それぞれ当該タイプで使用される語種の比率を調査する。たとえば、200 種の漢語動名詞のうち、200 種が「漢語スル・シカ+名詞」の動詞型構造パターンで使用されるため、動詞型の許容度は 100%ということになる。次に、占有比については、3 タイプの名詞節構造パターンの後接要素それぞれの出現頻度を調査し、総頻度における占有比を、いずれかの型の総出現頻度を 3 タイプ全体の総出現頻度で割ることで計算する(例：動詞型の占有比 = 「漢語スル・シタ+名詞」の出現頻度 / (「漢語スル・シタ+名詞」の出現頻度 + 「漢語ノ+名詞」の出現頻度 + 「漢語的・的ナ・ナ」の出現頻度))。

RQ2 (選択要因) では、3 種の名詞節構造パターンの占有比を目的変数とし、どのような説明変数が目的変数に影響を及ぼしているについて重回帰分析を用いて各型の言語要因を検討する。説明変数について、本研究では言語要因を幅広く考察するため、12 観点から全 30 種の変数を収集し、表 3 で示す。

表 3 説明変数

変数性質	説明変数	詳細
量的変数	書き言葉頻度	個々の漢語動名詞について BCCWJ の各変種での平均頻度
	話し言葉頻度	個々の漢語動名詞について CEJC での各変種での平均頻度
	中国語頻度	中国語書き言葉コーパス LCMC での出現頻度を調査し、PMW に調整する。
	メディアジャンル頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ 内の 13 ジャンル中、メディア性が強い「新聞」「雑誌」という 2 ジャンルにおける出現頻度を調査する。
	文書ジャンル頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ 内の 13 ジャンル中、政治・社会に関する公的な文書である「白書」「法律」「国会会議録」という 3 ジャンルにおける出現頻度を調査する。

	カジュアルジャンル の頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ内の13ジャンル中、カジュアル性が強い「ブログ」「知恵袋」という2ジャンルにおける出現頻度を調査する。
	語義数	個々の漢語動名詞について、『新明解』『大辞林』『岩波国語辞典』における語義数を調査して、平均値を求める。
ダミー 変数	意味分類	個々の漢語動名詞について、『分類語彙表』に準じて語義分類を調査する。「抽象的關係」「精神および行為」「自然現象」「人間活動の主体」の4カテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	自他性	個々の漢語動名詞について、上述の3つの辞書における自他性を調査し、2種以上に出現する品詞性を用いる。「自動詞」と「他動詞」の2つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	語構成要素の 品詞性	個々の漢語動名詞について、漢語を構成する2つの漢字の品詞性を調査する。「動詞-動詞 (VV)」「動詞-接尾辞 (Vs)」「動詞-名詞 (VN)」「動詞-形容詞 (VA)」「接頭辞-動詞 (sV)」「名詞-動詞 (NV)」「名詞-名詞 (NN)」「副詞-動詞 (MV)」「形容詞-動詞 (AV)」「形容詞-名詞 (AN)」の10カテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	品詞性	個々の漢語動名詞について「名詞的名詞」「動詞的動詞」の2つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	中国語品詞性	個々の漢語動名詞について、『現代漢語詞典』(第7版)に基づき、中国語における対応する語の品詞性を調査する。「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」「介詞(動作の時間・場所・原因・対象などの意味関係を表す品詞)」の5つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。

回帰分析とは、原因となる変数と結果となる変数の間の関係を量的に分析する統計手法である(石川他 2010)。また、説明変数が2つ以上の場合を重回帰分析(multiple regression analysis)と呼び、回帰式は $Y=a_1X_1+a_2X_2+\dots+b$ のようになる。重回帰分析には、主に二つの手法がある。全変数投入法は集めた説明変数を全部使ってモデルを作る方法で、ステップワイズ投入法は有意性が高い変数を一段階ずつ順番に投入し、その都度有意性を再評価して、有意性が失われると当該変数を除去する方法である。本研究では、ステップワイズ投入法を採用している。この方法は、モデルに含まれる変数が過剰にならず、より精度の高いモデルを構築するのに有効である。

4. 結果と考察

4.1 名詞節構造パターンの典型性

まず、重要漢語動名詞200種の中の各々について、BCCWJで、動詞型・名詞型・形容詞で1回以上使われているかどうかを確認した。その結果、200種中、各型で使用される語種の比率(許容度)は図1のようになった。次に、200種の語の総出現頻度(147855回)に占める各型の占有比を調べたところ、図2のようになった。

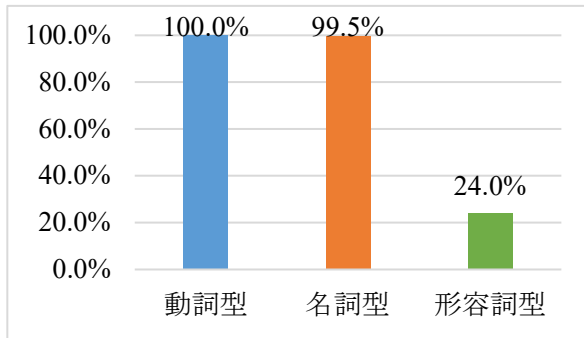


図1 各型の許容度

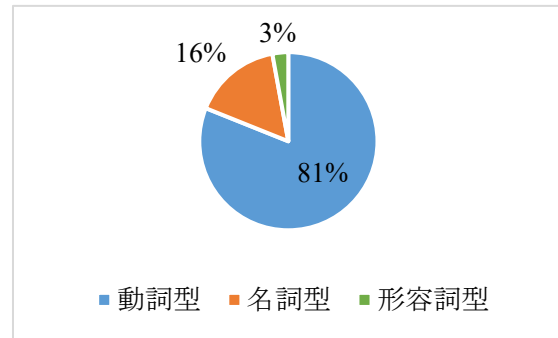


図2 各型の占有比

図1と図2から見ると、以下の3点がわかった。

1点目は、200種の漢語動名詞の中、どの漢語動名詞でも動詞型・名詞型はほぼ許容されるが、形容詞型が許容される語は約2割にとどまっているということである。つまり、ほぼすべての漢語動名詞が「スル・シタ」や「ノ」と共起して名詞が修飾される一方で、「的・的ナ・ナ」と共起して名詞を修飾できる漢語動名詞は極めて少数である。これは、多くの漢語動名詞が動詞と名詞の両方の性質を有するが、形状詞として使われる場合には自然な意味を持ちにくいのではないかと考えられる。

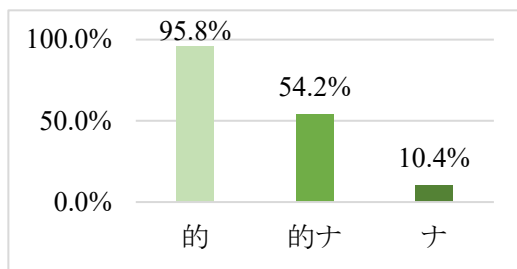


図3 「的」「的ナ」「ナ」の許容度

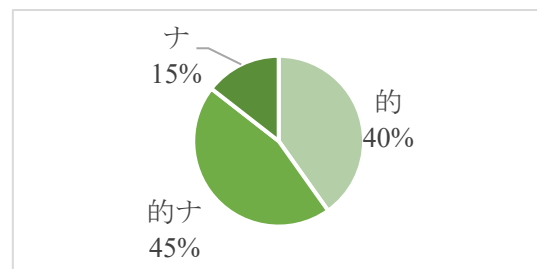


図4 「的」「的ナ」「ナ」の占有比

なお、形容詞型が許容される漢語動名詞をさらに観察すると、「的」「的ナ」「ナ」のうち、「的」の許容度が一番高く、「的」>「的ナ」>「ナ」という順序関係となるが、占有比の場合は「的ナ」>「的」>「ナ」という順序関係となることがわかった(図3と図4)。鄧(2022)では、漢語全般の場合は、「的φ」「的ナ」「ナ」の許容度と占有比はいずれも低い、「的φ」の許容度は3種の標識の中で最も高く、「的ナ」のほうが多く使用されることと指摘されたが、今回のデータも同じ傾向が示された。つまり、漢語動名詞は形状詞として名詞節において使われる際に、漢語全般の特性と同様だと言えるであろう。

2点目は、名詞型について、許容度は高いが、実際の使用頻度は低いということである。このことより、名詞型構造パターンの成立には何らかの条件があるのではないかと考えられる。石(2021)の調査によると、漢語動名詞の「VNノN」構文には、9割以上が動名詞と名詞との間に格関係がない「外の関係」で、1割以下が動名詞と名詞との間に格関係がある「内の関係」であることがわかった。また、前者の場合は修飾された名詞に、後者の場合は修飾節としての漢語動名詞の構成要素と意味範疇に制約がかかっていることが指摘された。したがって、漢語動名詞の「VNノN」構文の成立には複雑な条件があるため、実際の使用頻度は動詞型と比べてはるかに低いと言えるだろう。以下、石(2021)における「VNノN」構文のタイプと、各タイプと対応する今回抽出した用例である。

表4 石 (2021) における漢語動名詞の「VN / N」構文のタイプ

タイプ	類型	石 (2021) の例	今回の例
外の関係	内容型：NはVNの内容を表す	離婚の話 急増の傾向	練習の内容 判断の基準
	時間型：NはVNの進行の時点や過程などを表す	離婚の後 署名の上	出発の前 理解の下
	随伴物型①：NはVNの結果や原因、目的を表す	相談の結果 反対の理由 攻撃の心構え	調査の結果 減少の原因
	随伴物型②：NはVNのある側面や、VNと範列的な関係にある事態を表す	前進の方向 後退の一方	発展の主体 練習のほか
内の関係	「ヲ」格関係：①形容詞的要素を含むVN ②時空関係要素を含むVN	①新築の建物 ②上述の例	NA
	「ガ」格関係：①形容詞的要素を含むVN ②時空関係要素を含むVN ③仕事・職業を表すVN	①新着のメール ②先行の研究 ③配達の人	NA
	「デ・ニ」格関係：用途を表すVN	駐車場所	NA

表4からわかるように、重要漢語動名詞200種には石(2021)で提案された「内の関係」に当てはまるものが存在せず、修飾された名詞の意味範疇や、名詞と漢語動名詞間の意味的關係には制約がある。漢語動名詞を含む名詞節の構造パターンにおける名詞について、より詳しく考察する必要がある。

3点目は、形容詞型は許容度も低い、実際の使用頻度も低いということである。鄧(2022)は、漢語全般の場合は、「的φ」「的ナ」「ナ」の許容性と占有比はいずれも低いと指摘したが、今回のデータから見ると、漢語動名詞の場合も同じような傾向が見られることが確認された。

以上、動詞型・名詞型・形容詞型の名詞節構造パターンの典型性を、許容度と占有比の2つの側面から考察してきた。以下、BCCWJにおける具体的な用例を見てみよう。なお、漢語動名詞を含む名詞節の構造には下線を付けている。

【動詞型】

- (9) 振り込み手数料が高い順に並べてみたのですが、窓口を利用する方法が一番振り込み手数料が高いです。(OY01_02763, 特定目的・ブログ)
- (10) 青春十八切符を利用した人もいと聞くのですが。(OC13_01150, 特定目的・知恵袋)
- (11) さまざまに異なるものが共存していることが、全体として安定した状態をもたらしている。(PB33_00772, 出版・書籍)

【名詞型】

- (12) 原本が現に使用されている場合において、当該原本の一般の利用の方法又は機関を制限すること。(PB23_00071, 出版・書籍)
- (13) 十二年度からは、宿泊を伴わない、日中利用を導入し一層の利用の促進を図っている。(OW6X_00202, 特定目的・白書)
- (14) 高齢者の居住の安定の確保に関する情報及び資料の収集、整理及び提供を行うこと。(OL6X_00025, 特定目的・法律)

【形容詞型】

- (15) 今後とも国及び地方財政の長期的動向を勘案しつつ、その総額の安定的確保を図っていく必要がある。(OW1X_00205, 特定目的・白書)
- (16) 利用を含め、国産原料の最大限の活用を図り、加工原料の安定的な確保に努めること

が重要である。(OW4X_00106, 特定目的・白書)

(17) さまざまな変動をくり返しながらか、全体としては、長期間にわたって安定な状態を維持してきた。(OT23_00074, 特定目的・教科書)

まず、「利用」について言うと、手段を表す名詞である「方法」と組み合わせる際に、動詞型(例(9))と名詞型(例(12))のいずれにおいても使われる。一方、人間を表す名詞である「人」と組み合わせる時に動詞型のみ(例(10))、時間の進行や変化を表す名詞である「促進」と組み合わせる時に名詞型のみ(例(13))において使われる。また、「利用の方法」と「利用の促進」のいずれも、「利用」と修飾される名詞との間に格関係がないため、「外の関係」に属する。「利用の方法」は「利用」の具体的な手段ややり方を指しており、「方法」が「利用」の内容を示している。「利用の促進」の場合は、「促進」が「利用」という行動を増やす、進めるという結果や目的を示している。

次に、「安定」について言うと、物事や事物の様子を表す名詞である「状態」と組み合わせる際に、動詞型(例(11))と形容詞型の「漢語ナ+名詞」パターン(例(17))のいずれにおいても使われるが、名詞型や形容詞型の「漢語的・的ナ+名詞」において使われない。一方、人間の具体的な行動を表す名詞である「確保」と組み合わせる際に、動詞型において使われず、名詞型(例(14))と形容詞型の「漢語的・的ナ+名詞」において使われる(例(15)(16))。また、「安定の確保」では、「(高齢者の居住の)安定」を確保するという目的を示し、「安定」と修飾される名詞との間に格関係がないため、「外の関係」に属する。

以上のことから、漢語動名詞の名詞節構造パターンは修飾される名詞の種類に依存しており、具体的な文脈や名詞の意味範疇によって、どのパターンで使用されるか、または両方で使用されるかが決まるのではないかと考えられる。

最後に、上記の用例から見ると、動詞型の名詞節構造は書籍・ブログ・知恵袋などのジャンルで出現しているのに対し、名詞型や形容詞型は書籍・白書・法律・教科書などのジャンルで出現していることがわかった。鄧(2022)の調査によると、漢語と共起する「シタ」は書籍・雑誌・新聞・ブログなどのジャンルで広範囲に使用されており、「ノ」・「的」・「的ナ」は白書・法律などの公的ジャンルで、「ナ」は専門用語として使用されていることが明らかになった。今回の用例により、漢語動名詞の場合でも、同じような使用環境特徴を有するのではないかとと言える。

以上、RQ1では、(1)動詞型の名詞節構造パターンの許容度と占有比はともに高く、最も典型的パターンと言えるが、名詞型には使用条件が存在し、形容詞型は例外的な用法であること、(2)形容詞型においても「ナ」が付く用法は例外的であり、ほとんどは「的」や「的ナ」と共起すること、(3)漢語動名詞の名詞節構造パターンの選択は修飾される名詞の意味範疇による可能性があること、(4)動詞型は多くのジャンルで広範囲に使われるが、名詞型や形容詞型はより公的なイメージを持っていること、などが確認された。

4.2 言語特性による名詞節構造パターンの選択

RQ1では動詞型、名詞型、形容詞型の名詞節構造パターンの典型性が確認された。また、各型の特徴を実際の用例から観察された。RQ2では、各型を選好する漢語動名詞の言語特性を分析する。

4.2.1 動詞型における漢語動名詞の言語特性

すでに述べたように、動詞型名詞節構造パターンの許容度と占有比がいずれも高く、3種類の中で最も典型的であり、幅広い範囲で使用されている。では、漢語動名詞そのものが持つ言語特性が「スル・シタ」の選択にはどのような影響を与えているのだろうか。本節では、「スル・シタ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、用意した30種の説明変数のうち、9種が選ばれ、最終的に次のような回帰式が得られた($p<.001$, $R^2=.322$)。

「スル・シタ」の占有比=0.842++0.063*抽象的關係+0.001*書き言葉平均頻度+0.088*動詞的動詞-0.415*生産物および用具-0.052*名詞的名詞-0.254*AN-0.062*中国語動詞-0.030*語義数平均-0.036*自動詞

モデルは有意であり、説明力は32.2%である。このモデルに従えば、動詞型の名詞節構造パターンを選好する漢語動名詞は、(1)「生産物および用具」ではなく、「抽象的關係」を表す(例:「重視」「無視」「強調」「表明」など)、(2)語構成要素の品詞パターンについては「AN」(例:「安心」)ではない、(3)中国語では動詞以外として使われる(例:「選択」「意味」など)、(4)動詞性が高く、名詞性が低い(例:「強調」「反映」など)、(5)自動詞ではない(例:「確認」「説明」など)、(6)多義語よりも単一の語義を持つ(例:「確認」「検討」など)、(7)話し言葉より書き言葉のほうにおいてやや多用されている、などの7つの言語特性を持つと言える。つまり、漢語動名詞の意味範疇・語構成要素品詞パターン・中国語での品詞性・日本語での品詞性・自他性・語義数・使用環境などの特性は「スル・シタ」の選択には影響を及ぼすことがわかった。

4.2.2 名詞型における漢語動名詞の言語特性

「ノ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、用意した30種の説明変数のうち、7種が選ばれ、最終的に次のような回帰式が得られた($p<.001$, $R^2=.337$)。

「ノ」の占有比=0.175+0.412*生産物および用具+0.082*名詞的名詞+0.048*自動詞+0.046*中国語動詞-0.075*動詞的動詞-0.066*抽象的關係-0.001*書き言葉平均

モデルは有意であり、説明力は33.7%である。このモデルに従えば、名詞型の名詞節構造パターンを選好する漢語動名詞は、(1)「抽象的關係」ではなく、「生産物および用具」のような具体的なものを表す(例:「電話」「調査」など)、(2)名詞性が高く、動詞性が低い(例:「電話」「指導」など)、(3)中国語で動詞として使われる(「調査」「準備」など)、(4)他動詞性よりも自動詞性のほうがやや高い(「存在」「対応」など)、(5)書き言葉よりも話し言葉のほうでやや多用されている、などの5つの言語特性を持つと言える。つまり、漢語動名詞の意味範疇・品詞性・自他性・中国語での品詞性・使用環境などの特性は「ノ」の選択には影響を及ぼすことがわかった。

なお、李(2013)と鄧(2022)では、形状詞可能語が「ノ」を後接する場合関係概念を表すと述べられたが、今回の結果では同じようなことが確認されなかった。これによって、漢語動名詞の「ノ」を選好する傾向は形状詞可能な漢語全般の傾向とは異なることが確認された。

4.2.3 形容詞型における漢語動名詞の言語特性

「的・的ナ・ナ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、用意した30種の説明変数のうち、4種が選ばれ、最終的に次のような回帰式が得られた($p=.007$, $R^2=.069$)。

「的・的ナ・ナ」の占有比=0.136*AN+0.040*MV+0.030*中国語形容詞+0.015*語義数平均-0.007

モデルは有意であり、このモデルに従えば、形容詞型の名詞節構造パターンを選好する漢語動名詞は、(1)語構成要素の品詞パターンについては「AN」(例:「安心」)「MV」(例:「共有」「相当」など)である、(2)中国語では形容詞として使われる(例:「安心」「相当」

など)、(3) 多義語である(例:「代表」など)、などの3つの言語特性を持つと言えそうである。しかし、これまでに見た動詞型・名詞型の場合と異なり、説明力はわずか6.9%しかない。この点をふまえると、形容詞型について、漢語動名詞自身の言語特性から説明することは困難であると思われる。

以上、RQ2では、重回帰分析を用いて、漢語動名詞の言語特性が動詞型・名詞型・形容詞型の名詞節構造パターンの選好にどのような影響を及ぼすかについて分析した。漢語動名詞の意味範疇、品詞性、自他性などの自身の特性が「スル・シタ」と「ノ」の選択に影響を及ぼすが、「的・的ナ・ナ」の選択への影響が弱いことが確認された。

5. まとめ

以上、本研究では、BCCWJデータを用いて、日本語漢語動名詞が名詞節内で取りうる3つの構造パターンの関係について量的な調査を行い、以下の結果を得た。

まず、RQ1(典型性)について、(1) 動詞型が最も典型的で、以下、名詞型、形容詞型の順になること、(2) 名詞型については「外の関係」が中心であること、(3) 形容詞型は「漢語的・的ナ+名詞」の形はいくらか存在するものの、「漢語ナ+名詞」はほとんど存在せず、3つのタイプの中では例外的・特殊的事であること、などが明らかになった。

次に、RQ2(選択要因)については、3つの構造パターンの選択要因に関して、(1) 動詞型選択には漢語動名詞の意味範疇・品詞性・語構成要素の品詞性・自他性・中国語での品詞性・意味の数・使用環境などが影響すること、(2) 名詞型選択には意味範疇・品詞性・自他性・中国語での品詞性・使用環境などが影響すること、(3) 形容詞型選択を明確に説明する要因は存在しないこと、などが明らかになった。

本研究で得られた知見は、一般に、並列的に理解されがちな3つの構造パターンが実際には等価でないこと、また、各々の選択は偶然ではなく、何らかの言語的な手掛かりによって説明されうることなどを示す点で一定の意義を持つと思われる。こうした知見は、記述的観点に基づく日本語学研究だけでなく、海外学習者向けの日本語教育にも一定の有用性を持つと言えるだろう。

もっとも、本研究には、いくつか制約も存在する。1点目は、今回の調査ではBCCWJデータのみを使用しており、調査範囲が限られていることである。2点目は、各タイプの名詞節構造パターンの特徴に関する分析が、用例の観察に限られていることである。こうした制約については今後の研究で対応していきたいと考えている。

謝 辞

本研究は、語彙研究会の2023年度「公益信託田島毓堂語彙研究基金」の研究助成を受けたものである。語彙研究会ならびに田島毓堂先生に深く御礼申し上げる。

文 献

- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠(2010).『言語研究のための統計入門』くろしお出版。
 石立珣(2021).「動名詞の連体用法『VNノN』の使用実態と成立条件—中国人日本語学習者の使用状況から—」『日本語教育』179, pp.77-92.
 北原保雄(2007).『日本国語大辞典 第二版』小学館。
 桑原洋子(2017).「漢字2字熟語が漢語動名詞かどうかの判断に及ぼす語構成の影響：非漢字系中上級学習者対象の調査の結果から」『国際教育交流研究』1, pp.27-36.
 国立国語研究所(2004).『分類語彙表：増補改訂版』大日本図書。
 小林英樹(2004).『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房。
 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室(2016).『現代漢語詞典』商務印書館。

- 陳迪(2023). 「書き言葉・話し言葉コーパスデータに基づく高頻度漢語動名詞の品詞性の再考：日本語教育の視点から」『言語資源ワークショップ発表論文集』1, pp.215-232.
- 寺村秀夫(1993). 『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編一』くろしお出版.
- 鄧琪(2022). 「コーパス調査に基づく現代日本語における非和語系語彙の用法解明と日本語教育への応用」神戸大学博士論文.
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫・柏野和佳子・星野和子・丸山直子(2019). 『岩波国語辞典 第八版(LogoVista 版)』岩波書店.
- 松村明・三省堂編修所(2019). 『大辞林第四版(LogoVista 版)』三省堂.
- 山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之(2020). 『新明解国語辞典 第八版(LogoVista 版)』三省堂.
- 李在鎬(2013). 「形状詞の『ナ』共起と『ノ』共起のコーパス基盤調査」『計量国語学』29:3, pp.77-95.
- Tony, McEnery & Richard, Xiao (2004). The Lancaster Corpus of Mandarin Chinese. Lancaster University.

関連 URL

- | | |
|---------------------------------|---|
| コーパス検索アプリケーション『中納言』 | https://chunagon.ninjal.ac.jp/ |
| CQPweb (Corpus Query Processor) | https://cqpweb.lancs.ac.uk/lcmc/ |